
剣と魔法と学園物語

stringHz

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

剣と魔法と学園物語

【Nコード】

N1681J

【作者名】

stringhz

【あらすじ】

「それ」・・・正体不明の地下通路が現れて、世界を変えてしまった。

一攫千金を夢見るものが、その地下通路に挑み、たくさんの財宝を持ち帰った。

そんな「冒険者」がついには子供たちにとっての憧れの的になる。自分の強さを証明したいもの、一攫千金を目指すもの。

そんな中で生まれたたくさんの冒険者養成学校。

この物語は、その中の1つ、「クラニーラ学園」での物語である。

そこに入学した6人はそこで出会い、そして成長していく。

キャラ、設定、ダンジョン紹介

この小説は、アクワイア開発のゲーム「剣と魔法と学園モノ。」を参考にして書いた小説です。（ライトノベルですかねw）なお、「剣と魔法と学園モノ。2」のシステムはほぼ含まれていません。

キャラクター紹介

・まり（Mari）♀

クラニール学園所属。学園1年生のδ（デルタ）クラス。種族はヒューマンで、学科は戦士。本作の主人公。

力8、知恵8、精神8、生命力9、素早さ8、運9（現在成長中）である。性格は善。

活発で天然な方である。冷静な時と考え無し的时候があるため、周りからは優秀なのか優秀でないのかわからないといわれている。だが仲間思いであり、相性の悪い仲間にも手を貸そうとする一面もある。

問題は回避が苦手であること。

・どりむ（drim）♂

クラニール学園、学園1年生のδクラス。種族はドワーフで、学科は修道士。

力11、知恵6、精神10、生命力11、素早さ6、運7（現在成長中）である。性格は中立。

強がり得意張りである。悪戯ずき。戦闘では自慢の攻撃を生かして活躍することが多い。

負けず嫌いでもあり、体力を消費してもこらえて戦闘に立ち向かうこともある。変態でもある。

・ゆい（Yui）♀
クラニーラ学園、学園1年生のδクラス。種族はエルフで、学科は侍。

力7、知恵10、精神10、生命力7、素早さ9、運8（現在成長中）である。性格は善。
冷静で大人しい顔振りである。時には知恵をいかして仲間にアドバイスをしたりする。知識が多い。
決定的短所は命中率が低いことで、それを理由にスランプに陥ったこともある。

・レアン（Lean）♂
クラニーラ学園、学園1年生のδクラス。種族はクラッズで、学科は盗賊。

力6、知恵6、精神5、生命力6、素早さ12、運14（現在成長中）である。性格は中立。
男ながら顔立ちは学園で可愛いと噂されるほど童顔。
得意科目は数学しかなく、他の教科は全然できない。

・アフアム（Afam）♀
クラニーラ学園、学園1年生のδクラス。種族はフェアリーで、学科は僧侶。

力5、知恵9、精神7、生命力5、素早さ14、運12（現在成長中）である。性格は中立。
フェアリーである彼女はヒューマンであるまりに憧れを抱いている。体が小さいため、それをいわれると急にテンションが落ちる。

・りんご（Ringo）♀
クラニーラ学園、学園1年生のδクラス。種族はセレスティアで、学科は司祭。

力7、知恵8、精神14、生命力7、素早さ8、運10（現在成長中）である。性格は善。

成績優秀でその力はαクラスであつてもおかしくないが、試験本番に体調を崩した為、点数が低くδクラスとなつた。しかしながら若干怖がりで、アイテムの鑑定中に恐怖に陥ることがある。

・ライト（Right）♂

クラニーラ学園、学園1年生のδクラス。種族はディアボロス。学科は狩人。性格は悪。

性格の悪さからクラス全員に敬遠さて、誰も構つてくれなくなつたことから暴走し。まりパーティによつて抑えられる。以後まりパーティ達が時々かまってくれるようになり、すっかり元気を取り戻している。

・りょう、リン、フラァ、グミ、ゆう、アント（りょうパーティ）

クラニーラ学園、学園1年生のδクラスで、勢力はクラス内でまりパーティの次の2番目。

りょう♂ || フェルパー、侍、8 / 7 / 7 / 9 / 10 / 5 （力 / 知 / 精 / 生 / 素 / 運）

リン♀ || ノーム、僧侶、4 / 13 / 10 / 5 / 3 / 8

フラァ♂ || バハムーン、戦士、15 / 4 / 4 / 12 / 8 / 10

グミ♀ || セレスティア、司祭、5 / 7 / 13 / 8 / 10 / 9

ゆう♂ || ヒューマン、召喚士、7 / 7 / 7 / 7 / 7 / 7

アント♀ || フェアリー、盗賊、3 / 9 / 8 / 6 / 13 / 11

・オレンジ（Orange）♂

クラニーラ学園、学園1年生のγ（ガンマ）クラス。種族はバハムーン。戦士科。オレンジパーティの代表である。

力16、知恵7、精神7、生命力16、素早さ8、運10で、性格は悪であり、まりパーティ全員より、少し能力が高くなるため、鼻

を高くし、レズと共にまりパーティに挑むが、まりパーティの連携によりあっさり敗退となる。80点の減点が強いられ、クラス降格が決定しかけたがまりパーティ6人によって減点処分は無くなった。以来、まりパーティ達には感謝の気持ちを表すことがある。

・レズ(Lez)♀

クラニーラ学園、学園1年生のγクラス。種族はフェルパー。僧侶科。オレンジパーティーの一人。

力10、知恵8、精神9、生命力10、素早さ12、運7で、性格は中立。オレンジと共に、まりパーティに挑むものの敗退。80点の減点はオレンジ同様なかったことになる。

・ファイトム(faithm)♂

クラニーラ学園、学園1年生のαクラス。学園1年生で第1位。種族はセレスティア。

力13、知恵14、精神20、生命力13、素早さ14、運16。性格は善。ファイトムパーティのリーダー。

用語、設定など

・クラニーラ学園

冒険者養成学校の1つで、唯一クラス別振り分けを試験で行っている学校。

α(アルファ)、β(ベータ)、γ(ガンマ)、δ(デルタ)、ε(イプシロン)の順で優秀。

各クラス48人。(点数変動でクラスの人数が変わることがある。)
また、各クラスで優秀パーティが1組決められ、クラスリーダーとなる。

学園1年生の各クラスリーダーは以下のとおり。

α・・・ファイトムパーティ

β ・・・???

γ ・・・オレンジパーティ

δ ・・・まりパーティ

ε ・・・????

・生徒対抗戦

パーティの宣戦布告によって行われる。上位パーティからの宣戦布告は断ることが可能だが、下位クラスからの宣戦布告は断ることが出来ない。宣戦布告は教師から許可をもらった上で専用の用紙をもらい、記入することで初めて可能となる。

敗退パーティは減点、勝利パーティは加点となり、一定の点数でクラスが上下する。また、宣戦布告側は敗退すると、およそ2週間宣戦布告ができなくなる。点数が-になると補習となる。

例として、まりパーティの初期得点は300点。 α クラスパーティの得点平均は860点。（1年満点は1000点、現在0名）

満点のパーティは学園優秀パーティとして表彰されたり、特務が与えられたりする。

・クラス対抗戦

クラスリーダーの宣戦布告によって行われる。クラス全員が全滅した方の負けである。下位クラスの宣戦布告を上位クラスが断るのは不可能。勝利クラスは全員+10点、敗退クラスは全員-10点。

なお、クラスごとに予算がきまつており、勝利することでその予算をいくらか奪い取ることが可能。

・クラス増加

学年が1つあがると、クラスが1つ増加する。1年↓2年になると α の上に ζ （ゼータ）が増える。

また、その際、満点の点数が50点ずる増加する。1年↓2年は1000点↓1050点。

なお、進級の際、得点は昨年度のをそのまま引き継がれる。

・クエスト

生徒が受注することの出来る依頼内容。これをクリアすることで点数を稼ぐこともできる。

(しかし、所持点数が高いほど依頼でもらえる点数は少なくなる。)

・点数

パーティーごとに振り分けられている点数。この点数を基準にクラスが変更になる。

α	・	・	・	720点	～	1000点
β	・	・	・	511点	～	720点
γ	・	・	・	321点	～	510点
δ	・	・	・	151点	～	320点
ε	・	・	・	150点		

迷宮

・クラニーラ演習施設

クラニーラ学園専用の演習施設で、実際にモンスターを放って退治する授業を行ったりする場所。

マップは1層しかない。調子が悪くなり、モンスターが飛び出してしまふ事件があった。

・クラニーラ実習広場

クラニーラ学園専用の実習施設。かなり広く、パーティ対抗戦、クラス対抗戦はここで行われる。

・ニャーブル地下道

クラニーラ学園近くにある地下道。通常のモンスターも潜んでいる。

トラップは少なめ。

試験：プロローグ

「数学、時間は60分、はじめ！」

クラニール学園、クラス振り分け試験が行われた。

入学試験に合格した240人の生徒達が、今度はより上のクラスに入る為にペンを動かす。

そんな中に4人の少女と2人の少年がいた。

1人はヒューマン。特に何度の高い応用問題をペンを回しながらいかにも解けないよという表情で挑戦していた。

1人はエルフ。基本ができないのに何故か応用のきいている問題をスラスラといていた。しかしほとんどの問題は基礎問題なのである。

1人はドワーフ。どうやら頭を使うことは苦手らしい。しかし簡単な問題は頑張つてといていた。

1人はクラッズ。・・・男らしいぞ。難しい問題はとばしながらも基礎的問題はしっかりと正当を導き出している。

1人はフェアリー。背が小さい。問題が解ける解けないではなく、まずいすと机の大きさがあっていない故に苦戦していた。

1人はセレスティア。なんだか調子が悪そうである……。突然、机に突っ伏してしまった。

試験監督の先生が、彼女の許に駆けつけた。

「大丈夫か？無理なら退席可能だが、点数はこれまでの合計点になるぞ」

彼女は意識すら遠のいていて、軽く首を縦にふるくらいの意識しか無かった。

そんな6人が結ばれることも知らず、彼らは、苦戦しながら問題を解いていた。

1 時限目：δクラス

昨日試験を受験していた1人のヒューマンは、クラス分けのボードを見た。

彼女はδクラスらしい。1人でとぼとぼ歩いてそして教室へと向かった。

机と椅子はちゃんと常備されている。黒板もしっかりあり、普通の学校といっても過言ではない。

だが、この学校で少し替わっているところは、クラスによつての予算である。

最高ランクであるαクラスと、最低ランクであるεクラスでは、とても大きくは無いが予算に差がある。

設備はほぼ同じであっても、1つの行事に費やせる金額が変わってきたり・・・とかそういうものである。

彼女がやってきたδクラスは下から2番目であった。

「さて、今日から担任をしますノールです。よろしくお願いします」
スタイルのよい女性の先生の紹介がたった原稿用紙1行で終わり、

「さて、皆さんの自己紹介をお願いします。名前と学科と+α」

ノールの指定した、右前から縦に、順に自己紹介をしていく。

「アフアーム、です。・・・学科は僧侶です。宜しくお願いします」
そこには、昨日試験を受けていたフェアリーの姿があった。

「・・・学科は盗賊です。あ、でも誰の物も盗みませんよ」

着々と自己紹介が進んでいく。

「どりむ。学科は修道士。よろしく」

昨日のドワーフの姿があった。

そして、そうこうしているうちに、彼女も立ち上がった。

「うあ、えっと、まりです。学科は戦士です。宜しくお願いします」
よく言えました・・・ではなく、彼女の名前はどうか「まり」と

いうらしい。

さて、次。

「りんごです。学科は司祭です。どうぞ宜しくお願いします」

昨日調子が悪くて倒れてしまった彼女も、どうやらδクラスのようなようである。

・・・が、急に教室内がざわめいた。

『うそだろ？たしか彼女はαクラス並みの・・・』

『わざと点おとしたんじゃない？』

『・・・まさか』

一体何があつたのだろう。

「あの！質問です」

1人の生徒が立ち上がって、そしてその彼女に質問した。

「なんで、ここに、いるんですか？」

りんごは一瞬、困った顔色をして、ゆっくりと立ち上がって答えた。

「昨日の試験のとき、倒れてしまって、それでここになったんです」
なるほどね。理解した。どうやらりんごはαクラス的能力（勉強だが）を持っているのだが、

昨日の一件で、δクラスに入った、というわけである。

「えっと、レアンです。学科は盗賊です。宜しくお願いします」

昨日の試験を受けていたクラス。彼もまたこのクラスである。

今度は女子のざわめきがおこる。今度はどうした。

そして、アフアーム・まり・りんごともう一人を除いた4人以外の女子が一斉に

「かわええええ」

と。叫んだ。

そして、いよいよ最後の人。その人は・・・

「ゆいといいます。学科は侍です。宜しくお願いしますー」

やはり昨日のエルフの少女である。そして少し回りを見渡して席に着いた。

これで、この6人が同じクラスだつてことが証明できたであろう。
そうして先生が告げる。

「では、早速パーティーの編成をします。方法は……………」

1 時限目：δクラス（後書き）

ちよいとバカテスのような感じもしますね。結構似ちゃってます。
設定。

まあ剣と魔法と学園モノ。をもとにしますので、まあ少しずつ替わ
っていくと思いますが（・・・）

2 時限目：出会いは突然

「方法は、同程度の力を持つもので6人構成となります。ただし、相性を考えていますので、若干の変動はありますが、そのへんは了承して下さい。でははじめます。」

「りょうパーティ。りょうさん、リンさん、フラァさん、グミさん、ゆうさん、アントさん」

「レムパーティ。レムさん、ライトさん、けいさん、クーレスさん、こうさん、ぶどうさん」

「ニヤルフムパーティ。ニヤルフムさん、しんさん、みなみさん、ミユートさん、イーストさん、きしさん」

「かくパーティ。かくさん、ひろさん、りなさん、シャルトさん、チームさん、フルツクさん」

「トールパーティ。トールさん、ひぶさん、なくぶしさん、トールテンさん、トルトさん、ジープさん」

「オーファパーティ。オーファさん、りんさん、クリヤさん、ちづさん、ところさん、ベールさん」

「ふじパーティ。ふじさん、チャクさん、とみさん、テオさん、いむさん、ファークルさん」

「まりパーティ。まりさん、どりむさん、ゆいさん、レアンさん、アフアムさん、りんごさん」

「となります。では、そのパーティでまとまって席についてください。」

まりのパーティにつくことになったのは、先程紹介した5人である。これが出会いのきっかけである。

まり、どりむ、ゆい、レアン、アフアム、りんごは、その班でまとまって席に着いた。

「パーティーリーダーは先程言った人。それがパーティーで1番の
高得点者です。」

ちなみに、テストの結果は以下のとおりらしい。

まり・・・318/1000点(δクラス1位)

どりむ・・・286/1000点(δクラス8位)

ゆい・・・310/1000点(δクラス2位)

レアン・・・287/1000点(δクラス7位)

アフアム・・・299/1000点(δクラス5位)

りんご・・・300/300点(δクラス3位・平均点学年1位)

パーティー平均(初期得点) 300/1000点(δクラス1
位)

「では、先生は書類をとってくるので、パーティーと馴染めるよう
に会話でもしておくこと」

先生は教室を出て行き、そして先生の指示通りに生徒は挨拶やらを
交わしていた。

「よろしく」

「宜しく願います」

「宜しく願います」

「よろしくおねがいします」

「宜しく願います」

まりパーティーも堅苦しい挨拶を交わしていた。ただ一人

「みんなよろしくー!」

能天気なまりの姿があった。

「うーむ、種族的に考えると相性が悪いのかもしれないが、みんな
美少女だな。これならやっていける」

どりむが性格を露にしていた。たしかに、このパーティは全員顔立
ちがいい。クラス内でも優秀であるし。

そうこうしているうちに先生が戻ってくる。

「では、パーティを打ち出しておきますね、早速明日、総合の授業ですよ。」

「本日は下校して、明日に備えてくださいね」
授業開始まで、あともう少し。

2日目：位置関係の把握は冒険者にとって大事なのです

「では、皆さんそろっていますね、これから授業を始めます。」
まだクラスリーダーが決まっていない為、号令は無い。

「まずは、今後の日程をお知らせします」

「まず本日は学校施設案内。しっかりとこの学校について聞いて困らないように。そして明日は早速クラスリーダーパーティの決対戦を行います。」

クラスリーダーパーティとは、名前どおりのことで、まず各パーティで対戦し、その結果からリーダーを選ぶというものである。

この学校は実は中等学校であり、初等（3年間）でしっかりと知識をつけ、中等（5年間）、高等（2年間・希望者）、冒等（1年間・希望者）となっていくシステムである。つまり生徒同士の対戦は可能だ。

ちなみに、テストは国・数・社・理・英・保体・芸術・錬金・冒険・戦闘の10科目だったのだ。

「では、案内するので、ついてきてください」

48名の生徒が、しっかりと整列して先生の後をつけていく。

「ここは、職員室。先生達の部屋。授業があるときは担当の先生に声をかけてください」

「ここは、保健室。怪我などをしたらここに治療しに来てくださいね」

「ここは、図書室。クエストの依頼などはここで受けられるから、何かあったら図書委員に声をかけてね」

「ここは、購買室。ちょっと高いかもしれないけど、役に立つものがたくさん売っています」

「ここは、実験室。理科の授業と錬金科の授業はここ。昼休みは錬

金も可能です」

「ここは、校長室。校長先生にしっかりと挨拶して下さい」

『おはようございます』

「ここは、演習施設。戦闘などの授業はここ。」

「ここは、実習広場。明日のリーダー決定戦もここで行います」

全部で8箇所の部屋を回って教室へと戻った。

「今日はこれでおしまい。では、各パーティーに分かれて、前衛後衛を決め作戦を立ててください。優勝者はリーダーの権利だけでなく、10点を差上げますので、心してかかってくださいね」

「ねえ、どうする？」

まずはまりが言った。流石パーティーリーダー。

「普通に考えたら、まりちゃんとゆいちゃんとどりむくんじゃない？」

りんごが言う。

「うん、そうだねー……って他のみんなは？」

「私もいいと思います」

と、ゆい。

「俺も別にかまわない」

と、どりむ。

「別にいいですよ」

視線をちらちらとまりに向けながら、アフアームは答えた。

「僕も、どちらでもいいです」

レアンも同じ解答で、2賛成、4放棄なので、

「じゃあ決定だね」

30秒で決定した。

そして、まりが思いついたように言う。

「ねえ、連携の確認でもしない？」

完全な思いつきのようだ。どこでどうやるというのだろうか。

「私は別にいいんだけど・・・どこで？」

「フォームル地下道でいいかな」

フォームル地下道、一般人の進入が許可されている地下道である。モンスターはレベル2以下のものしかでないため、多少のスキルがあれば中に入るとは可能であるからだ。死人もまだでていないのである。

「俺はめんどくさいからやだね」

どりむは断った。

「えー、おねがいだよ」

まりが頼み込む。

「じゃあ、スカートの中を見せてくれたら」

「やだよ！それじゃあわたしがすごく理不尽な気がするよ！」

- 結果、どりむ強制連行。

空気の把握は冒険者にとって大事なの

です。 以上。

2日目：位置関係の把握は冒険者にとって大事なのです（後書き）

さて、この小説の地の文ですが、じつは作者視点ではありません。
設定としてはそうですね・・・天から見守る者とも思ってください。
い。

放課後：連携って普通なら1日でとれませんか

放課後。まりパーティーはフォームル地下道へ向かっていた。

「ここだよ」

一行は到着したようである。階段の前は閉まっており、モンスターが飛び出してこないようになっている。

鍵を解放して中に入っていた。

中は地下道の為くらいはずだったが、ここはライトが整備されているために置かれていて、少し先であれば見通せるようになってい。「いくらライトがあるとはいえ、見にくいことに変わりはないな」

どりむが言った。

「？結構見えるんですけど」

レアンがいう。盗賊は遠くを見通せるのだろうか。それとも何かで鍛えたりしたのだろうか。

「ここは結構普通の住人もいるのね」

と、ゆい。見渡す限り、このくらい中を探索していたり、中には外が暑く涼んでいる人までいる。

「地下R1は奥地でない限りモンスターがでないんだよ」

なるほどねえ。まりはここによく行くのだろうか。

さて、一行は奥地に入り込み、錆びたメダルで連携を確認していた。「後衛はまだパチンコが無いから魔法で援護するわね」

と、りんごがいう。司祭と僧侶は可能だ。盗賊も後衛で姿を隠し、相手に攻撃することも可能である。

（錆びたメダル×4が現れた！）

（りんごとアフアムは身を守った！）

（レアンは身を隠した！）

「えいっ！」

（まりは錆びたコインにタガーで斬りつけた！錆びたコインに5の

ダメージ！錆びたコインを倒した）

「やあっ！」

（ゆいは錆びたコインにスタッフで斬りつけた！錆びたコインに9のダメージ！錆びたコインを倒した）

「どりゃあっ！」

（どりむは錆びたコインに素手で攻撃した！錆びたコインに4のダメージ！錆びたコインを倒した）

（錆びたコインはどりむに攻撃をしかけた！しかしどりむは身を交わした！）

（レアンは錆びたコインから物を盗んだ！錆びたコインに7のダメージ！錆びたコインを倒した）

（10ゴールドを手に入れた）

・・・とまあこんな感じである。

「効率よくできたねー」

とアフラムが言った。

そこへ、突然地下道内に電子音が響き渡った。

「ピンポンパンポン・・・地下道にいる皆さんにお知らせします。

只今、地下道中央にて、モンスターの大量発生が確認されました。危険ですので、一般の方々は避難をお願いいたします。」

「ゆい、りんごー？」

まりが2人を呼ぶ。一応しっかり者はこの3人といっていいかもしれない。その証拠にまりからアイコンタクトを受け取った2人はほぼ同時に頷いた。

「とりあえず、この辺に誰かいないか探しましょうか」

りんごが代表で言った。扉の奥を中心に6人で見回る。幸い、動けない人はいないようだった。

「やっぱ中央に行ったほうがいいのかしらね」

「いかない？こういうのは学生の役目だし」

「敵の勢力がどのくらいかも不明だしな。人手は多く必要だろう」

「いきましょう」

「いった方が良さそうですね」

「行ったほうがいいと思うー」

今度はゆいとまりで決める。ついでに他の4人も賛成の意を述べた。実は地下道でおきたことの対処は冒険者養成学校に通う学生のみが行うシステムになっているのだ。

6人が中央へたどり着くと、すぐそこにモンスターの退治をしている1人の生徒がいた。ちょうど敵3体の攻撃に対処しきれず攻撃をくらってしまっていたところだった。

「大丈夫ですか？」

パーティーリーダーがその生徒に話しかけた。

「ごめん、あとは頼んだわ」

「はいはい、任せてくださいっ」

（バグ×3が現れた！）

りんごとアフアムはとりあえず身を守る。レアンはすぐに身を隠した。

「えいつ」「やあっ」「とうっ」

まりとゆいとどりむがそれぞれバグに攻撃を仕掛ける。

バグはゆいに3体同時で攻撃を仕掛けてきた。ゆいは2体の攻撃を交わしたが、もう1体の敵が仕掛けてきた。

「しまっ！」

そこへまりが駆けつけてバグに攻撃を仕掛けた！バグは怯んだ。

「大丈夫？」

「うん、ありがと」

りんごはバグにダシルドを唱えた。相手の回避値が下がったようである。

どりむとゆいがバグに攻撃を仕掛けた！バグ2体は倒れた！

レアンもバグに攻撃を仕掛ける。もう1体のバグも倒れた！

「大丈夫ですか？」

先程の生徒に話しかける。ちょうど傷の手当を終えたところだった。

「大丈夫。あなたたち？δクラスの生徒よね？」

「え？あ、はい」

「じゃあ、報告しておくわ。助けてくれたとね」

「あ、ありがとうございます！」

そこへ・・・

「うわああああ・・・」

男の人の叫び声が聞こえた

「悪いけど？行って見て来てくれないかしら」

「じゃあ、行こうか」

また6人は歩き出した。

そして、それはその先にいた。体長は大きかった。

「これは・・・・・・」

りんごが最初に気付いた。それを見て全員が青ざめる。

「これは・・・・・・死体？」

男子生徒が倒れている。意識が無い。

そして、そのモンスターがその生徒を襲おうとしていた。

「やるしかないのかな・・・」

レアンが少しおびえていた。

「やるしかないでしょう」とゆい。

「・・・」が目の前に立ちはだかった！

まり、ゆい、どりむの攻撃を仕掛けた。・・・は回避した。

「はい！」

りんごがとつさにダシルドをかける。相手の動きがすこし遅くなった。

「・・・」はこちらの様子を伺っていた。

アファムは身を守る。レアンは姿を隠した。

まりは攻撃を仕掛けた。???にダメージを与えた

ゆいも仕掛ける。???にダメージを与えた。

どりむは力を溜めた。

???はアファムに遠距離攻撃をしかけた。しかりアファムは浮遊して回避した。

「後も気をつけて!」

ゆいが注意を呼びかける。レアンが???の背後から攻撃を仕掛けた。???に不意打ちでダメージ!

「一筋縄ではいかないみたいだが?」

どりむが言う。

「でもやらないとそこの生徒が・・・」

「だよなあ。」

まりとゆいは???に攻撃を仕掛けた。???にダメージを与えた。どりむは溜めた力を相手に放った。???にダメージを多めに与えた。???は怯んだ。

「よし、効いた!」

???はまりに攻撃を仕掛けた。まりは攻撃を回避した。

「まりちゃん、危ない!」

「へ?・・・きゃあっ!」

???はまりに”連続”攻撃を仕掛けた。まりに8のダメージを与えた!

「痛・・・」

「大丈夫?」

アファムが心配そうに駆けつけてきた。

「うつ・・・」

痛みで声がでないようである。アファムはヒールを唱えた!まりは体力を全回復した!

「ふう。少し楽になった。アファム、ありがとう」

まりが戦闘に復帰する。???は素早さを取り戻した。

「やっぱりこれじゃあ当てられそうに無い・・・」

りんごはもう一度ダシルドをかけようとする。しかしそれを???は見逃さない！

「あつっ！」

急な遠距離攻撃に対応しきれずにりんごは攻撃を受けた！9のダメージ。アフアムがとつさに回復する。

「もう同じことはさせないってわけか」

しかしこれではどうしようもない。6人で相手の攻撃を回避しながら考える。

ゆいがい思いついたらしい。まりとどりむを呼んだ。

「それでいこう！」

まりが賛同する。3人はそれぞれ分かれた。

???はゆいに攻撃をしかけた。ゆいは攻撃を回避した。

同時にまりとどりむが攻撃を仕掛けた。???は不意打ちを受けた！

レアンも背後から攻撃を仕掛けた。さらに???は不意打ちを受けた。???は怯んで動けないでいる。

「今だ！」

どりむが叫ぶと後衛を前へでいつせいに攻撃を仕掛ける。???は大ダメージを受けた。

・・・決着はついた。

戦闘終了：名譽

謎のモンスターを倒してから数分後、先程の女子生徒が姿を現した。彼女はその姿を見、

「えっ・・・」

驚きで目を丸くした。

「これ、あなたたちが倒したの？」

すぐに我に返ったその生徒はすぐそこにいた6人に尋ねた。

「・・・はい」

パーティー6人は同時に応答する。

『この人たち・・・できるわね』

生徒は呟く。

「何か言いましたか？」

それはどうやらまり達には聞こえなかったようである。

次の日、一行は学園長に呼ばれた

「やっぱり叱られるのか？」

どりむは言った。

「停学とかになったら嫌だなあ」

続いてレアン。

「んじゃあ。開けるよ」

まりがいうと。同時に全員が生唾を飲み込む。ここの学園長は厳しいと噂されている為である。

「そこに座りなさい」

どりむ以外がその声にしる震え、すぐそこにあったソファに「失礼します」と言って座った。

「あなたたち、地下道で避難命令を無視して、そして勝手にモンスターを倒したようですね」

この語り口調からして、誰もが怒ると思うだろう。しかし学園長が

ら出た次の言葉は・・・

「その非常事態に尽くしたあなたたちはこの学園にとってとても名誉です。よって、パーティーに20点を加算します」

と、淡々と告げた

「・・・すいません。って、え？」

「今、何と・・・？」

学園長は少し首を傾け

「わたくしはあなた方パーティーに20点を加算するといっただけです」

とまた淡々と。

「・・・あ、有難うございます！」

と、そういう訳で。

旧) 25位 (↓) まりパーティ 得点: 300点 勲章数: 0

表彰数: 0 点加算数: 0

新) 24位 (→) まりパーティ 得点: 320点 勲章数: 0

表彰数: 0 店加算数: 1

・・・となった。(Vクラスまで、あと1点)

「怒られると思ったけど、まあ安心したあー」

まりが胸をなでおろす。

「そうね。あの途中までの怒り口調といい、なんかややこしいわと、ゆい。」

「結果、よかったじゃないですか」

と、りんじ。

さて、彼女達の昇格はもう目の前になったのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1681j/>

剣と魔法と学園物語

2010年10月11日04時34分発行